



地域新電力の現状と課題

シントウエナジー株式会社
常務執行役員 須藤 慎

・はじめに

私たちシントウエナジーは、東日本大震災で甚大な被害のあった宮城県石巻市で、2021年に設立された地域の電力事業者です。再生可能エネルギーの普及を促進し、電力の地産地消を目指しています。今回は、日本各地にある地域新電力の現状と課題について、私たちが所属する一般財団法人ローカルグッド創成支援機構の資料を基にお話します。石巻市は、東日本大震災から立ち上がろうとしながらも、他の地方都市と同様に若年層の大都市圏への流出が続いており、人口減少という課題を抱えています。しかし、近年は「地域創生」への国家予算が倍増されるなど、関心が高まりつつあり、若い世代もSDGsや街づくりに興味を持つなど、働き方に対する価値観が変化しています。こうした大きな潮流の中で、多くの地域新電力事業者が、電力事業を通じて街の魅力を発信し、地方創生に取り組んでいます。このニュースレターが、皆さんが「地域創生」を考えるきっかけになれば幸いです。

・地域新電力の現状と取組事例

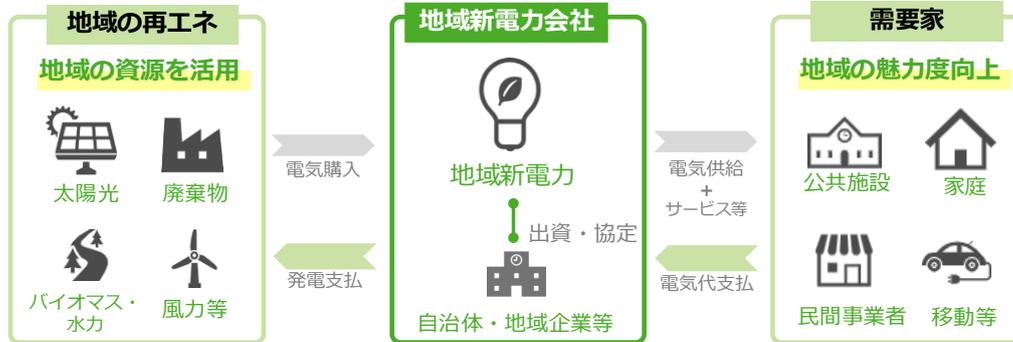
地域新電力の一般的な事業スキームとしては、地域の資源である再エネ電源を活用し、公共施設や地域の民間企業などに電力を供給し、地域内循環を図ることとされています。それにより、地域経済の循環や雇用の増加、地域課題解決への収益還元、地域再エネ開発への再投資、更には地域にノウハウが蓄積することにより、部署移動があり専門人材が育成しづらい自治体の相談相手になることが期待されています。(図1)

しかしながら、前述でも述べた通りの地域創生の大きな潮流があるとはいえ、小規模な新電力事業者が多いため、人材確保が課題となっております。このニュースレターを見ていただいている方々には教育関係者の方も多いため、学生の就職先として、これから一例として紹介する地域で価値を生み出している地域新電力事業者の活動(図2)をご理解の上、是非就職先の一つとしてご検討いただきますと幸いです。

地域新電力の一般的な事業スキーム



- 地域の再エネ電源等を地域に供給するとともに、地域課題解決事業などを実施



地域への価値創出



※地域新電力の明確な定義があるわけではないが、環境省は、地方自治体の戦略的な参画・関与の下で小売電気事業を営み、得られる収益等を活用して地域の課題解決に取り組む事業者を「地域新電力」としている。 (『地域新電力事例集』環境省地域循環共生圏推進室2021年3月より) ©Local Good

図 1

・地域新電力で働く魅力

地域課題や地域の特性など、地域によってさまざまなので、次にあげる魅力が全て当てはまるわけではありませんが、主な魅力を上げさせていただきます。

① 社会貢献や地域貢献を実感できる

地域経済循環や地域課題解決といった地域貢献を掲げる会社も多く、基金を設立や寄付、地域応援プランの電力メニュー提供、自治体の課題解決に財源創出可能な電力メニューの提供と金銭的な地域貢献の他、地域課題解決のために、地域交通の支援や子供たちへの環境教育、UI ターン移住の支援など、地元の方と触れ合う機会も多く、その中で地域の方々から感謝されることも随所にある為、自身の仕事がダイレクトに地域で役立っていることが実感できることが多いと思います。

② 裁量を持った仕事ができる

地域新電力では、若いうちから事業を動かす『面白さ』を実感できます。大企業では担当業務が細分化されますが、地域新電力は少人数のチームで動くため、一人ひとりの業務範囲が広がります。自分で考え、行動し、事業を前に進めていきたい人には最適な環境です。また、経営層との距離が近く、自分の仕事が会社の経営に直結する手応えを感じられます。若いうちから経営感覚を磨けるのも大きな魅力です。弊社もそうですが、まずは行動して、壁に当たりながら試行錯誤し物事を乗り越えていく。ある程度裁量を持ち、自分自身で事業を進めていきたいと考えている人にとっては、地域新電力は良い環境になると思います。

③ 職場と住居の距離も近く家族との時間も取りやすい

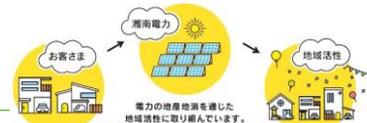
基本的には転勤がなく、都心のように通勤にかかる時間も少なく済むことが多いです。近年、都内住宅価格が高騰し、子育て世代にとっては、住居を構えることも難しくなっているように感じますが、地方では、空き家問題などもあり、庭付き一戸建てのような住宅でも非常に安価に住めることが多くなっています。地域新電力に限ったことではありませんが、家族のために時間を使いたい。そんなライフスタイルも重視しながら、活躍できる場が地方にはまだまだ多く眠っています。

④ 自分の価値を実感できる

地方にも魅力的な企業はたくさんあります。しかしながら、人材の都心部流失という課題があり、働き手が足りていません。人材がいれば進めたいプロジェクトがあっても、現状の人員リソースではそこまで手が回らない。「大企業では優秀な人材が多いゆえに『替えがきく存在』になりがちですが、地方では、専門性や熱意が、かけがえのない力になります。埋もれてしまいがちな才能も、地方では大いに花開くチャンスがあるのです。そんな地域にいと、代替の利かない貴重な存在であると自分の価値が実感できて、仕事のやりがいにつながるのではないかと考えております。しかし、地域で働くことのメリットもありますが、地方はあくまで地方なので、首都圏に比べ給料水準も劣ることが多く、業務範囲も広範囲となることをどのようにとらえるか。大企業での安定よりも、自身の成長や家族との時間、社会への貢献度を重視する人材にとっては、地域新電力の業務は非常に魅力的に映るのではないかと考えております。

以上のように、地域新電力には、家庭と仕事の両立や、自分の仕事が地域に貢献し、自分の存在価値が実感できる環境があります。このような環境は、若者のキャリア形成を判断する上でとって大きなポイントとなる働き方になると思います。

地域に価値を出している地域新電力の事例（1 / 2）

<p>ローカルエナジー（株） (鳥取県米子市・境港市出資)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2市、中海テレビ放送等の地元企業5社が出資して設立 ・蓄電池・PV・消化ガス発電でVPP（非常用電源にも） ・需給管理等業務はほぼ全て内製化（地元女性が活躍） ・一部公共施設等へRE100メニューの電力供給 ・環境省「脱炭素先行地域（米子市・境港市）」事業の担い手（わが社・わが社PPA、データプラットフォーム等予定） 	<p>ひおき地域エネルギー（株） (鹿児島県日置市出資)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市、地元ガス会社等地元企業が出資し設立 ・小水力発電開発・運営も実施 ・マイクログリッド（特定送配電事業）による地域レジリエンス向上 ・需給管理、特定送配電業務等業務はほぼ全て内製化 ・利益の一部をひおき未来基金に。子育て支援プログラムも ・環境省「脱炭素先行地域（日置市）」事業の担い手（わが社・わが社PPA、再エネ人材育成事業等を実施） 
<p>湘南電力（株） (神奈川県小田原市と協定締結)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地元ガス会社等の地域企業が中心となり設立 ・オンサイトPPA、マイクログリッドでのエネマネ等を実施 ・需給管理等業務はほぼ全て内製化（地元若者が活躍） ・市などが実施するEVカーシェア事業との連携も ・地域活性化応援プラン（電気代1%を還元） ・湘南ベルマーレ応援プランなども提供 	<p>たんたんエネルギー（株） (京都府福知山市出資)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・福知山城や公共施設などに再エネ100%電気を供給 ・市民出資型太陽光発電のオンサイトPPA事業を実施 ✓市民に気候変動対策を考えてもらうきっかけに ✓太陽光発電&蓄電池&V2Bでレジリエンス向上も ✓出資者に市内観光チケットや地域産品（地域振興にも） ・市の脱炭素政策推進のパートナー（子育てNPO支援、環境教育等） 

地域に価値を出している地域新電力の事例（2 / 2） ローカルグッド 創成支援機構

<p>(株) 三河の山里コミュニティパワー (愛知県豊田市等との協定で設立)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域団体・市民が中心となり設立（自治体出資無し） ・事業利益で地域交通を支援（「たすけあいカー」） ・自治体単位で電気を切替えると、自治体の課題解決に充当できる財源創出が可能な「おたがいさま電力」 ・地域出資・寄付によって地域病院にソーラーカーポートを設置  <p>「たすけあいカー」 「おたがいさま電力」</p>	<p>(株) 能勢・豊能まちづくり (大阪府能勢町・豊能町が出資)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・オンサイトPPAを実施 ・公共施設向けの省エネ診断（使用電力量4割削減の施設も） ・高校生の通学課題解決に向けたe-bike実証 ・再エネゾーニングの実施（条例化） ・リユースEVの公用車利用を実証 ・電力売上の一定割合（2%）を地域活動に寄付  <p>省エネ診断の様子 再エネゾーニングをきっかけに地域について考えるワークショップ</p>
<p>うすきエネルギー (株) (大分県臼杵市と協定を締結)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・木質バイオマス発電所を運営 ・需給管理など業務はほぼ全て内製化（地元女性が活躍） ・上げDRプラン、子育て応援プラン、スポーツクラブ応援プラン ・環境教育、地域調査業務受託などローカルシンクタンクの動きも  <p>臼杵バイオマス発電所 環境教育の様子</p>	<p>飯田まちづくり電力 (株) (長野県飯田市と協定を締結)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市民出資型太陽光発電開発や小水力発電も行うおひさま進歩1社と連携し、地産の再エネ電源を供給 ・同社と連携して、オフサイトPPAを実施 ・飯田ケーブルテレビ会社と連携し、家庭向けにも販売 ・飯田まちづくりカパと連携し、再開発複合ビルへの省エネコンサルティングを実施 ・環境教育、子育て応援割引、UIターン移住応援割引なども  <p>オフサイトPPAは合計2MW 環境教育ではコンセプトの向こう側を紹介</p>

図2 ローカルグッド創成支援機構提供資料より

・再エネへの想い

私は、この再生可能エネルギーの分野に携わるようになってまだ6年と、経験は浅いかもかもしれません。しかし、この仕事を通じて『地域を豊かにする』という確信を日々深めています。地域での再エネ普及は、単なる環境問題への取り組みではなく、住民に利益をもたらし、雇用を生み出し、暮らしを豊かにする『地域貢献』そのものだと思っています。ドイツのシュタットベルケ（公営事業体）のように、電力事業で得た収益を、採算が取りづらい地域の公共インフラに投資し、地域の人々の生活を支えていく。そして、ローカルシンクタンクとして、地域の課題解決をリードしていく。そんな姿を理想としています。

私たちシントウエナジーの取り組みも、まだ始まったばかりですが、電力事業から街づくりに貢献したいという強い想いをもって活動しています。「再生可能エネルギー脱炭素研究プラットフォーム」を通じて多くの学びの機会をいただきながら、微力ながらも東北地方の脱炭素に尽力してまいりたいと考えております。